

校長室だより 2026 年度11月号

Be Creative！

巨人の肩に乗って

-On the Shoulders of Giants-



吹奏楽部の奮闘に敬意を表して今月の校長室だよりのタイトルを決めた。「巨人の肩に乗って」はこの 1 年間、吹奏楽部がこだわり、数々の大会にチャレンジをしてきた自由曲のタイトルである。このタイトルは、アイザック・ニュートンの言葉としてあまりにも有名な次の一節からとられたものである。

“If I have seen further it is by standing on the shoulders of Giants.（もし私が遠くを見ていたとするなら、それは巨人たちの肩の上にあったからだ。）”

全くの受け売りで、知っていらっしゃる方々には言わずもがなの説明になるが、この楽曲はイギリスの人気作曲家ピーター・グレイアムの話題作だ。楽曲のタイトルは、近代物理学の祖アイザック・ニュートンが、1676 年2月5日、ロバート・フックに宛てた手紙に書かれている“If I have seen further it is by standing on the shoulders of Giants.”という一節からとられている。一般的には「巨人の肩に乗る」とは「偉大な先人達、またはその功績の上に立つ」という意味の比喩表現である。この楽曲における「巨人」とは、シカゴ交響楽団ブラス・セクションのメンバー、マイルス・デイビス、トミー・ドーシー、ハーバート・L・クラーク、アーサー・プライアー、シモーネ・マンティア達のことを指しているとのことだ。アメリカで金管奏法の多様性を高めてきた伝説的金管プレイヤーの巨人たちへの敬意が込められており、高校の強豪吹奏楽部においても積極的に大会にチャレンジする楽曲として採用されてきた作品である。

椙野先生が吹奏楽部顧問として赴任された 2018 年度から数年間、私も顧問の一人として吹奏楽部の運営に携わった。2019 年度、新入生が入り、26 人の楽団となった。この年の 7 月、初めて、中部日本吹奏楽コンクールに挑戦をした。当時、愛知県代表として選ばれるのは 2 校だった。1 年生中心の楽団ゆえ、「チャレンジ」だと思っていた私は、代表校として本校の校名が呼ばれた時には本当にびっくりした。生徒たちも同様だったと思う。私は生徒たちと一緒に座っていたが、生徒たちも驚きすぎて、本来なら起こる歓声すら起こらなかった。私たちは会場の上部から飛ぶように階段を駆け下りてきた椙野先生の姿を見ることになる。先生は、生徒たちにこう言われた。「君たちは本大会に行けると確信していたよ。」この時の生徒たちのきらめく笑顔を私は忘れることはない。

この後、吹奏楽部は、県大会は言うまでもなく、東海大会、全国大会へと進出をする部活へと成長していった。わずか 26 人の演奏ながら、何よりも美しいハーモニーを作り出すことに心を傾け、



取り組んだ彼らはいつも堂々としていた。今の吹奏楽部の土台を彼らは確実に作ったのである。今年の自由曲を聞きながら、私はいつもあの 26 人の顔を思い浮かべていた。まさに「小さな巨人たち」であり、新しい時代を築いたパイオニアたちである。現部員たちはそれに続こうとしている。心より誇りに思う。

11月―たくさんのおめでとう！

★ダンス部





今年も JHC ダンスコンテスト全国大会への進出を勝ち取りました。しかも、今年はチーム Revina（写真左）・チーム V!XEN（写真右）の 2 チームが FREE STYEL 中高生一般部門 FINAL に出場します。一度引退した3年生も再結集し、12月27日（日）愛知県芸術劇場で開催される全国大会に出場します。どうぞ、ご期待ください。頑張れ！ダンス部！

★テニス部



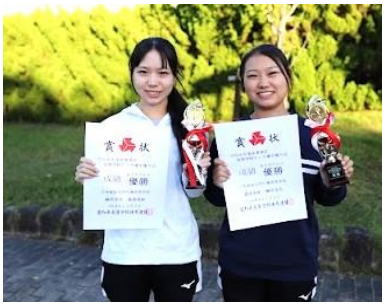


10月中旬より開催されていた知多地区のテニス NO.1を決める大会が11月7日に終了し、本校の成績が以下のように決まりました。

女子シングルス1位　江坂あかりさん（1年生）
女子ダブルス1位　森島萌結さん（3年生）　榊原栞名さん（3年生）　3連覇達成！
男子シングルス1位　野田和輝さん（3年生）　2連覇達成！
男子ダブルス3位　玉村蒼樹さん（1年生）　明壁颯太さん（1年生）

その他、入賞した選手の皆さんにも大きな拍手を送ります。
見事な結果を導き出す取り組みとなりました。







★吹奏楽部

11月8日（日）、本校吹奏楽部連続6回出場となる日本管楽合奏コンクール全国大会が、東京の文京シビックホールにて開催されました。「優秀賞」の成績とともに、協賛企業より贈られる「野中貿易賞」も合わせて受賞しました。

★私学協会表彰

令和8年度優良生徒　上坂光璃さん（3年生）
英語検定準1級取得　柴山龍太さん・堀田蹴斗さん（共に3年生）



「Just take action. Anything is OK！」

11月7日（土）、本校を会場にして第6回 Global Meetup を開催いたしました。その企画の一つとして、日本福祉大学の卒業生である丹羽俊策さんがご自身の経験や現在の取り組みをお話してくださいました。標題として書いた言葉は、丹羽さんが大学時代にご自身のテーマとして掲げていたものであると同時に、今もこれが生きる指針となっているとして、私たちに紹介してくださった言葉です。青年海外協力隊としての経験を活かしながら、自分の持てる力や能力を社会貢献・社会進歩のためにどう生かすべきなのかを考え続け、行動し続ける日々を送っていらっしゃいます。大学時代に学んだ「自ら課題を見つけて行動すること」と青年海外協力隊で学んだ「一緒に暮らし、働き、同じことばで理解し合い、生活をすること」が合わさり、現在の丹羽氏の活動の原動力となっています。丹羽さん、高校生に向けて、貴重なお話をありがとうございました。